

編集後記

社内カンパニー制に移行後、はじめての小誌をお届けする。今後は、インフォソリューションズ、メジャメントソリューションズ、インダストリアルソリューションズ、ネットワークソリューションズの各カンパニーが自己責任において業績を拡大すべく、オリジナリティに富んだハイレベルなソリューションをご提供していくことになる。ご期待ください。

さて、最近、「情報ネットワーク社会」(今井賢一著、岩波新書)という本に出会った。1984年に発行された本でありながら、現在の社会認識と今後の洞察力に新鮮な感動を覚えたので紹介したい。情報ネットワーク社会を、「情報の生産と伝達が発展の原動力となり、ネットワーク型の組織によって編成される社会」と定義し、その本質的な内容と今後の展望を述べている。まず、その本質とは、本来、人と人が交換してきた情報を、情報通信という安価で有効な手段を手に入れることにより、生産、流通、金融と言った定型業務型産業の機械化を急速に進め基盤を改革するとともに、それまで無関係であった産業、企業を新たに連結し、異質なものを結び付けることによって、新たな産業を生む社会としている。そして、情報・通信系技術の革新と自立性を求める現代の価

値観が社会をこの方向に推し進めており、将来、情報通信インフラストラクチャの整備が進み、ある時期までくと突如不連続な変化が発生する。すなわち、これまでの鉄鋼、石油といった天然資源という有限な資源を基盤とした社会組織が、情報と言う目に見えない無限の資源に支えられた社会組織に変貌すると、まさに現在のIT革命を言い当てている。

この革命の原動力こそが、先端技術に支えられた自主性を持った小集団が自発的に連携し、創造的なソリューションを生み出す活動であると言い、自主性を持った小集団とは究極的には個人であり、仕事の中に喜びを見出し、自己充足することであるとしている。そして、この自己充足の状態とは、仕事を生活のための手段と割り切ることから脱却し、心をこめた手作りの仕事をする事、と結んでいる。

小生のように、休日になっても心のどこかに仕事のわだかまりをもって余暇に没頭できない会社人間を、仕事を手段的価値と割り切ることすらもできない未熟な状態と見るか、自己充足に一步近づいた状態と見るか、それが問題である。(N.F.)

アンリツテクニカル編集委員会

編集委員長/永井治男

編集副委員長/福田昌夫

編集事務局/池上 彰

笹尾 紘一

編集委員/横原 茂

牟田 敏保

小島 利治

野村 稔

古屋 伸夫

中野 好典

土屋 富志夫

石積 清博

小林 貞夫

高橋 福幸

園部 洋治

大澤 昭夫

栗本 猛男

橋津 正晶

アンリツテクニカル

79

2000年9月29日 発行(年2回発行 非売品)

発行人 永井治男

発行所 アンリツ株式会社

〒106-8570 東京都港区南麻布五丁目10番27号

TEL (03) 3446-1111

2000年9月28日 印刷

印刷所 文祥堂印刷株式会社

〒108-0073 東京都港区三田五丁目3番7号

アンリツ株式会社 2000 無断転載を禁じます。

問合せ先 アンリツテクニカル編集事務局

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名1800番地

アンリツ株式会社 技術本部共通技術部

TEL (046) 296-6525

<http://www.anritsu.co.jp>